

図書館だより

No.79 December, 2011



目次

巻頭エッセイ 漫画倉庫	機械工学科 田中 大	1
読書のすすめ 私の教冊	電気電子工学科 原 卓伸	2
私の一冊	各学科学生6名	3
リレー連載「古典への誘い」 學生に與ふ	制御情報工学科 江崎 昇二	4
平成23年度前期図書館利用状況		5
Information 編集後記		6

巻頭エッセイ

漫画倉庫



機械工学科 田中 大

人は次の三つのタイプに分類できる。

- ・一度読んだ漫画でも何度も読み返す人間
- ・一度読んだ漫画はもう読まない人間
- ・漫画を読まない人間

私は、同じ漫画を何度も読み返す人間に当てはまる。子供の頃から家には、父親が買ってきた漫画が置いてあった。家にテレビがなかったこともあり、暇な時はいつも漫画を読んでいた。家にあった漫画は多分、数百冊程度だったと思うが、1日に10冊ずつ読むとしても1ヶ月で300冊。2・3ヶ月もすると家に置いてある漫画は全て読みつくしてしまう。ストーリーもほとんど覚えてしまっているが、それでも読む度に面白く、何度も何度も読み返していた。

久留米高専の教員として働くようになり、自分でお金を稼げるようになってからは、好きなだけ漫画を買えるようになった。しかし、果てしなく増殖していく漫画は、次第にその置き場所に困るようになり、家族からの苦情も強くなっていった。このため、表題とした「漫画倉庫」を庭に建てた。倉庫といっても、「100人乗っても～」の物置であるが、はっきり数えたことはないが、4・5千冊の漫画（と若干の本）が並べられており、漫画三昧を楽しんでいる。

漫画、と一口に言っても、漫画に対する考え方は人それぞれである。楽しく役に立つ人生のお友達、単なる暇つぶし、役に立たない、漫画ばかり読まず小説を読め（この巻頭エッセイを読まれている先生からも聞こえてきそうですが）、興味が無い、と様々であろう。しかし、一度も漫画を読んだことがない、漫画を読んで面白く感じたことがない、という人も珍しいのではないだろうか。

「漫画ばかり読んでいないで」と悪者にされがちな漫画であるが、実は日本を代表する文化である。私の少ない経験であるが、外国の本屋の漫画売り場にあるのは、ドラえもんやドラゴンボールなどの日本の漫画がほとんどだったり、実は世界の有名なサッカープレーヤーの中にキャプテン翼をきっかけにサッカーを始めた人もいたり、今や世界中で愛される漫画へと成長している。

高専の教員として、もちろん、学生の皆さんには、若い頃に多くの本（小説やエッセイ）を読み、色々な世界を知り、人生を深みのあるものにして欲しいと願っている。しかし、活字慣れしていない（本を読み慣れていない）人にとって、いきなり「本っていいですよ～。本を読みましょね～」と言っても、どんな本を読んでいか分からないし、本って面白いの？となってしまうかも知れない。もしもそのような学生がいたら、まずは漫画からでも慣れて親しんでみてはいかがでしょうか？

漫画のジャンルは、昔と比べると驚くほどに広がっていて、例えば囲碁、歌舞伎、高専（！）に関する漫画もあるなど、興味が持てるジャンルの漫画にも必ず出合えることと思う。また、たまたま手にとって読んだ漫画から、何かに興味を持つこともあるかと思う（私の場合、美術品、落語、アジア旅行など）。漫画を読むことで何かに興味を持てば、それをきっかけに興味を持った何かに関する本を読むことで、自分の世界もどんどん広がっていくだろう。

学生の活字離れと言うのは私が学生の頃から言われてきたことだが、現在、ネットの掲示板やSNS、ブログなどを駆使し、楽しんでいる学生を見ると、活字離れ（ネットの活字も活字なので）なんて簡単に言えないし、面白い本があればどんどん読むんだらうな、と思う。

ネット上には面白い情報がたくさんあるのかもしれないが、それと同じように、いや、それ以上に面白いものが本や漫画には詰まっています、ページをめくれば、その本や漫画にしかない世界が広がっている。

書籍のデジタル化の流れに完全に乗り遅れ、我が家の漫画（と一部の本）は増殖する一方であり、漫画倉庫もその収容能力に限界が来ている。新しい倉庫を建てることもできないため、新しい漫画を買う度に、何か古い漫画を捨てなければならぬ。同じ漫画を何度も読み返す人間として、それが目下の悩みである。

特集 読書のすすめ

私の数冊



電気電子工学科 原 卓伸

私には、悪癖があります。一つ目は、寝転がって本を読むこと。二つ目は、すぐに飽きて、別の本に手を出してしまうことです。ですから、おのずと何度も同じ本を読むはめになります。また、読んだ内容が腑に落ちて、ある考え方に至るまでに、普通の人の何十倍も時間がかかります。ということで、タイトルは自然と「私の数冊」になりました。紹介する本は、一見、何の関係性も無いように見えますが、私の頭の中では関連を持っています。ここでは、それらの本を簡単に紹介し、最近の私の私見を述べたいと思います。

「それでも人生にイエスと言う」著者 V・E・フランク

この本は、私にとって読むのが辛いものであると同時に、気が楽になる不思議な本です。

フランク氏は、フロイトやアドラーの影響を受けて精神科医になったユダヤ人です。同時に、第二次世界大戦下、強制収容所に送られ、いつ死んでも不思議ではない状況にありながら、様々な人間の生死を目の当たりにし、偶然、生き残った人です。

この人は言います。生きるとは、「生きる意味を問うこと」ではなく、「今、私は何を問われているのか、そして、その問いに対して、どう答えるかということ」と。また、不遇に遭った時、「生」を無意味にしてしまう人間の弱さについても語っています。

「時間の終焉」著者 J・クリシュナムルティ

クリシュナムルティ氏（以下、Kと略します）はインドに生まれ、十四歳の時、ある教団の指導者かつ世界教師になるべき人間として発見されました。

しかし、自らその教団を解散した後、各国を遍歴し、思考について、講演や対話を通して洞察してきた人でもあります。Kは人間の思考とその産物である、宗教、思想、哲学、伝統などに依存することによって「区別」し、安易に安心した結果、人間が何度も同じ過ちを繰り返してきたことを、鋭い洞察により指摘し続けてきました。

一方、ボーム氏は、量子力学を主軸として多様な思考体系のあり方を模索してきた物理学者です。

興味深いのは、Kとボームが謙虚に対話し、ボーム自身が、どんなに科学的知見が得られたとしても、根本的

な人間の進化（変容）はあり得ないと素直に認めている点です。対話のリズムも素晴らしいです。

Kはボームとなり、ボームはKとなっています。

「私は虫である」著者 熊田千佳慕

熊田さんは、日本のプチファーブルと呼ばれた方で、九十八歳で亡くなるまで、「ピンボー」な生活の中で、ひたすら昆虫の目線になって観察し、昆虫や花などを緻密な絵で表現し続けた人です。

この本の中にある、数々の詩のような短い言葉については、説明できません。ただ、何も考えずに、それらの言葉を味わってみて下さい。

以下は、私の私見と今の私の中の切なる希望です。最近、日本や世界各地で起きている社会現象を観察するにつけ、「生」がいかに「理不尽」なものであるかを痛感しています（日本で言えば、東北地方大震災とそれに伴って起きた人災です）。やっかいなのは、私を含む多数の人間が「理不尽」なことを、なんらかの思考体系で丸めないと安心できない点です。

ここで、紹介した本の著者達は、境遇は異なれど、「理不尽」なことを「諦める（明らめる）」ということ、謙虚に観察、内省、実践してきた方々です。念のため繰り返します。「明らめる」ことの意味を理解し、決して「妥協」はしなかった人たちです。実践は難しいのですが、「理不尽」に感じる心のからくりが気づき、「理不尽」なことを「そのままにできる精神」を育てることが大事だと思います。

最後にもう一冊、本を紹介します。

「マインド タイム」著者 B.リベット

リベット氏は、人間の様々な認識過程に関する研究を行っている人です。正確な表現ではないのですが、簡単に要約します。脳の活動を調べてみると、ある行動をしようとして意識した（気づいた）0.5秒前に、すでにその行動に関わる脳の部位は活動しているという、一見、へんてこな実験結果を示し、「意識」と「無意識」の関係について考察しています。先に紹介した本とも関連がある興味深い本だと思います。



私の一冊



ウォルター・アイザックソン 著 井口 耕二 翻訳
ステーブ・ジョブズ I 講談社

僕は『ステーブ・ジョブズ I』という本をお勧めします。タイトルを見れば分かるでしょうが、この本は先日他界したステーブ・ジョブズの伝記です。アップル社を設立し、様々な製品を世に生み出してきたジョブズ。この本を読めば彼がどんな人生を歩み何を成し遂げてきたかがよく分かります。ジョブズのことをよく知っている人もあまり知らない人も楽しめる一冊だと思っるので、興味がある方は読んでみてください。

(機械工学科4年 案納 響平)
【図書館所蔵情報】 ◇購入予定



坂井 直樹、ふかさわ人 著 グリーンアロー出版社
モノのカタチ 20世紀デザイン進化論

わたしたちの生活は物で溢れています。シンプルなデザインは、意味もなく作られているわけではなく、ちゃんとした理由のもとに生産されています。今、わたしたちがその「理由」を知ることはなかなか難しいです。この本には「物」の形が辿ってきた変化や経路などがわかりやすくかかれています。これをみれば物が無造作に象る形が試行錯誤のすえの無駄のない美しいものであることがわかります。著者は後書きで書いています。「時代はゆっくりと、しかし確実に変わっていくものである」と。その変化を受け入れ、物が形を変えながら重ねた年月を大切にしていくと、時代はよい方へ進んでいくのではないのでしょうか。

(生物応用化学科3年 井本 芙美佳)
【図書館所蔵情報】 ◇購入予定



クリフォード・ストール 著 池 央取 訳
カッコウはコンピュータに卵を産む 草思社

始まりはたったの75セントだった。研究所のシステムの使用料金が75セント合致しない。一人の天文学者がその原因究明にあたり、正体不明のハッカーの存在にたどり着く。そのハッカーは研究所のシステムを足場に国防総省、CIAのコンピュータにまで侵入していた。どうやって侵入したのか？ハッカーの目的は？世界的なニュースになったハッカー事件を、ハッカー相手に奮闘した天文学者が書き下ろしたドキュメントである。一昔前の話だが、それだけに今現在のことを考えてしまう本だと思う。ぜひ読んでほしい。

(電気電子工学科3年 山下 凱)
【図書館所蔵情報】 391 || S || 3 (1)、(2)



日沖 桜皮 著
フェルマーの最終定理 PHP研究所

私は決して数学が好きな訳ではなく、参考書など読まない。この本は文字数の比較的少ない、簡単な小説である。この本には、私達が授業で当たり前のようにまた有り難く使わせて頂いている公式や定理の数々が、2000年以上も昔の人達によって日々繰り返し研究された結果であることが、分かりやすく書かれていた。私達の身の回りには、最新の科学技術でも証明できない事柄が溢れている。生命の誕生や成長、宇宙や物理・科学の法則などは「神秘」と言われる。そう、まさに神様が作った秘密だ。遊びにバイトにテスト勉強に明け暮れている高専生だが、時には独りで静かに神様が作った秘密について考えてみるのもいいかもしれない。

(材料工学科5年 木下 美由紀)
【図書館所蔵情報】 913 || Z-H || 7



安能 務 著
三国演義 講談社

私の一冊は、「三国演義」です。時は中国、漢の時代。腐りきった後漢の政治に民衆はうんざりしていた。そんな時、張角という人物が現れる。張角は、不満を持つ民衆に、黄色い布を身に着けさせて、「黄巾の乱」を起こした。反乱は、各地の群雄たちによって鎮められたが、既に後漢に権力は無くなっていった。群雄たちはこそって、我こそはと天下を目指し始めた。三国時代の幕開けである。他の群雄を蹴散らして、天下を手に入れるのは誰か！？力と力、技と技、策と策のぶつかり合いをお楽しみください。

(制御情報工学科1年 古川 和良)
【図書館所蔵情報】 ◇購入予定



長沼 伸一郎 著
物理数学の直観的方法 講談社ブルーバックス

あまり掘り返したくない話だが、私はベクトル解析の試験で赤点をとったことがある。計算方法を覚えたのみで本質を理解していなかった。わかっているつもりだけれども、うまく説明できない。結局理解していなかったに等しい。本書は、理工学系に必要とされる物理数学について、その数式が持つ意味を単純明快に解説している。私のような理解力に乏しい者でも理解することができる。前述のベクトル解析に関しても、特に理解しづらい「回転」から電磁波まで、著者のあまりに巧みな説明に感動したほどである。公式をただ覚えるだけではどこかが痒い思いがする、このような人は本書を手にとってみることを薦める。

(専攻科機械・電気システム工学専攻1年 井上 昂治)
【図書館所蔵情報】 B-B || B || 1738

リレー連載「古典への誘い」

學生に與ふ



制御情報工学科 江崎 昇二

古典と言われてすぐに思いついたのが、『古典制御理論』、『論語』そして『學生に與ふ』です。

『古典制御理論』は、制御工学の最もポピュラーなフィードバック制御理論です。多くの大学工学部の機械・電気系学科では、大学4年生で学ぶ内容ですが、本校制御情報工学科では4年生で開講しています。古典制御理論というからには当然現代制御理論があります。古典制御理論と現代制御理論の大きな違いは、対象とするシステムが一入力出力なのか多入力多出力なのかの違いです。数学でいえば、式がスカラーなのかマトリックスなのかといったところです。古典といっても、現在工場などで使われている制御理論の90%は、古典制御理論の代表的設計法であるPID制御だといわれていますので、名前と実態が合っているとは言いがたいものがあります。ちなみに、現代制御理論は、大学工学部の機械・電気系学科では、大学院で学ぶところが多いようですが、本校制御情報工学科では5年生の選択科目として開講しています。

表題に書いた『學生に與ふ』は、常用漢字では「學生に与う」と書きます。読みは「がくせいにあう」です。この本が、古典といえるのかどうかはわかりませんが、河合栄治郎（日本の社会思想家・経済学者であり、第2次世界大戦前夜における著名な自由主義知識人の一人）が、第二次世界大戦の最中の1940年（昭和15年）に、「學生はどうあるべきか、教育とは何か」を若者に伝えるために書いた本です。

私がこの本と出会ったのは、約30年前の22歳の時です。きっかけは、大学の研究室の先輩（現在は沼津高専教授）との雑談です。当時の研究室では、先生や先輩と、研究のことにとどまらず、種々雑多な話をしていました。それまで、「何のために学校で学ぶのか」ということを深く考えたこともなかった私に薦めてもらったのが、この本です。あまり本を読む習慣のなかった私だったのですが、すぐに書店に買いに行ったのを覚えています。今にして思えば、なぜ図書館にいかなかったのだろうかと思います。

当時、私が読んだこの本は、戦前の文体が残ってお

り、読みづらい文章で、かつ内容も難しいものでした。本を読むのが嫌いな方だった私が頑張って読んでくからです、その当時の自分にとって、その内容は「目からうろこ」の状態だったのでしょうか。今にして思えば、この本との出会いは、その後の自分の人生に大きく影響していると思います。当たり前のように疑問を持ち、原点に戻ることの重要性を認識させられるものでした。

先日、本校図書館に行って探してみましたが、残念ながら現在は所蔵されていないようです。最近、現代版も出版されているようなので、ブックハンティングの時にでも探してもらえれば幸いです。

もう一つの私にとっての古典は、みなさんご存知の『論語』です。これは、誰もが認める古典ではないかと思えます。学生時代に読んだときは、その面白さを全く理解することができませんでした。数年前に、有名なその一節を読む機会があり、初めて、その含蓄の深さの一端に触れることができたように思います。

「子の曰く、朝に道を聞きては、夕べに死すとも可なり。吾、十有五にして学に志す。三十にして立つ。四十にして惑わず。五十にして天命を知る。六十にして耳順（した）がう。七十にして心の欲する所に従って矩（のり）をこえず。未だ生を知らず、焉（いづく）んぞ死を知らん。」

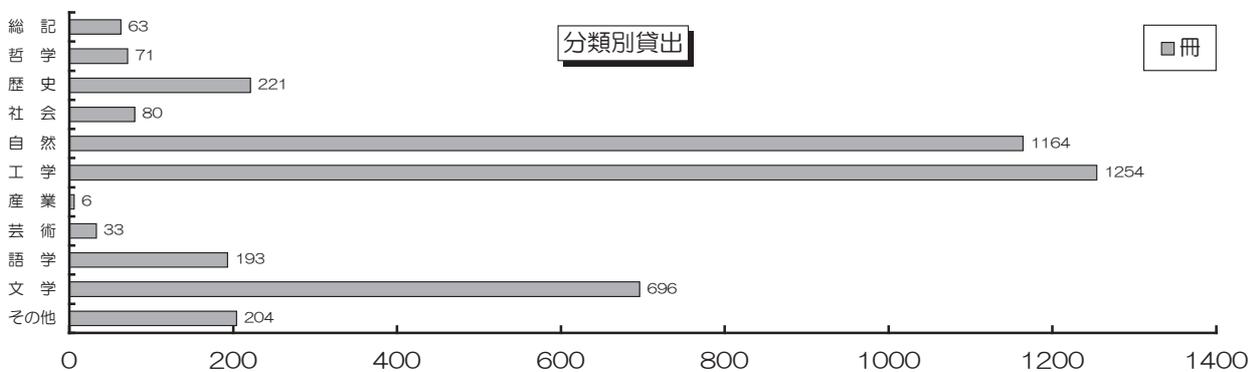
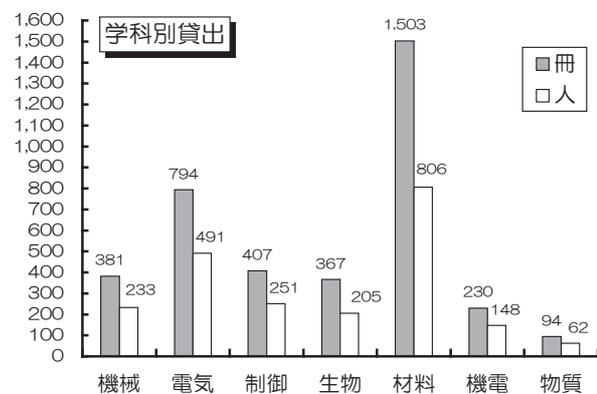
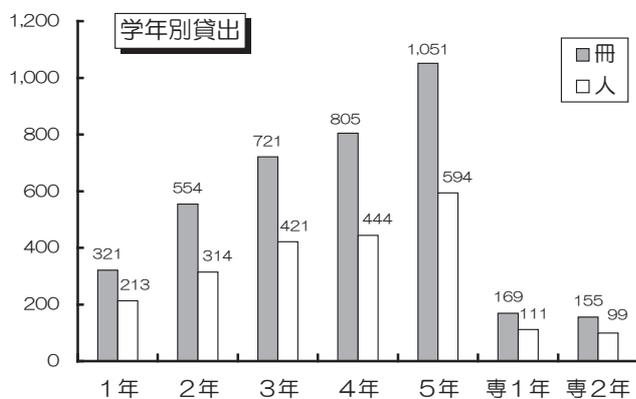
高専生は、十五歳のときにエンジニアを目指す決断をします。その後、進路は就職・進学に分かれるものの、大半の人が三十歳前後までには、自分の主となる仕事を決めることになると思います。また、四十歳の時に、自分の進む道に惑うことなく、社会に貢献できる仕事があれば本校の教育理念に合致したエンジニアになれたということだと思います。

学生の皆さんにとって、古典はあまり興味のないものの一つだと思います。しかし、その一端にでも触れておくことは、その後の人生に何らかの影響を及ぼすことになると思います。一見、意味がないように見えるものから、意味を見いだせるようになるよう、様々なものに触れることをお勧めします。

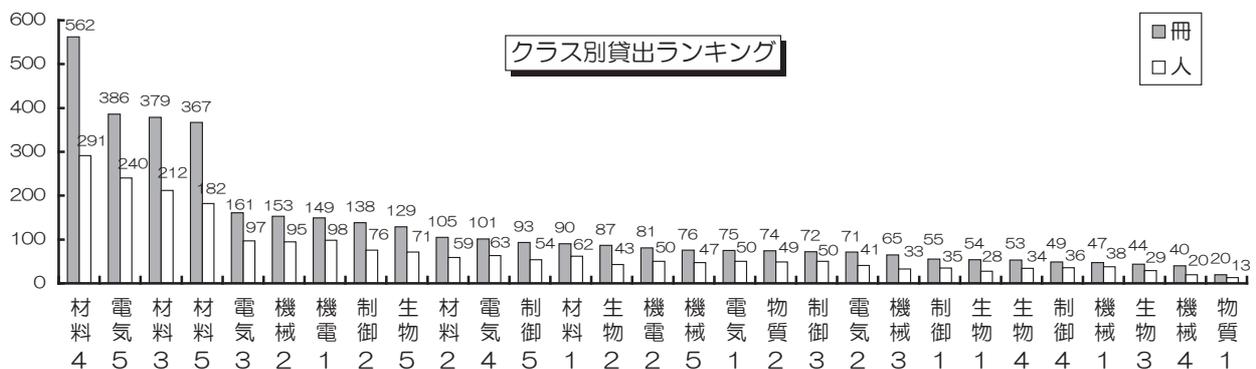
平成23年度前期 図書館利用状況

◆開館日数及び入館者数

月	開館日数	入館者数				一般利用者数 (内数)	一日平均入館者数 (四捨五入)	開館時間
		平日		土曜日	合計			
		時間内	時間外					
4	24	2,891	437	180	3,508	17	146	平日(時間内) 9時~17時
5	23	3,145	782	193	4,120	20	179	平日(時間外) 17時~20時
6	26	3,181	879	317	4,377	14	168	土曜日 9時~17時
7	23	2,865	449	64	3,378	18	147	※夏季休業期間 平日 9時~17時
8	20	986			986	10	49	
9	24	2,524	745	246	3,515	15	146	
合計	140	15,592	3,292	1,000	19,884	94	143	



※ 分留別貸出冊数には、教職員及び一般利用者貸出冊数を含む。



Information

下記のとおりお知らせいたします。開館時間の変更及び臨時閉館にはご注意ください。



◆特別(長期)貸出について

冬季休業期間中の特別(長期)貸出は下記のとおりです。

- ・貸出期間：12月16日(金)から12月27日(火)まで
- ・返却期日：1月11日(水)
- ・貸出冊数：5冊以内

(一般利用者及び教職員は通常貸出です。)

◆卒業・修了予定者への貸出等について

今年度卒業・修了予定者への貸出は下記のとおりです。

貸出：2月24日(金)まで 返却：3月2日(金)まで

◆開館時間の変更及び休館日について

冬季休業及び年末年始は下記のとおりです。

- | | |
|----------------|-----------|
| 12月22日(木) | 9時～20時 |
| 23日(金) | 休館(天皇誕生日) |
| 24日(土) | 休館 |
| 25日(日) | 休館 |
| 26日(月) | 9時～17時 |
| 27日(火) | 9時～17時 |
| 28日(水)～1月4日(水) | 休館 |
| 1月5日(木) | 9時～17時 |
| 1月6日(金) | 9時～20時 |

以降、通常どおり



◆◆図書館からのお願い◆◆

図書返却日は厳守 飲食物の持込禁止
携帯電話は使用禁止 騒がしい行為・会話は禁止

《編集後記》

後期中間試験が終わり、年の瀬の慌しさを感じる今日この頃、こんにちは制御科の中野です。今回の図書館だよりで違和感を感じませんでしたか？実は、読書のすすめコーナーは、いつも新任教員や留学からの復帰教員の執筆コーナーとなっているのですが、今回、該当者がいなかったのです。このコーナーを休みにすることも可能だったのですが、電気科の原先生がご好意で、寄稿してくださいました。それも4冊分の読書のすすめです。この場を借りてお礼申し上げます。

さて、もう一つ報告事項として、夏休み初日に行った前期ブックハンティングがあります。授業の補助教材として役立つ書籍、編入試験や就職活動のための書籍、人気作家や直木賞受賞作品など様々な観点から選ばれています。これら選書は、図書館入口すぐのカートにまとめて開架していますので、是非手にとって見てみてください。また、参加してくれたブックハンター(?)のみなさんお疲れ様でした。尚、後期のブックハンティングは12月26日(月)に実施する予定です。

さてさて、2011年も残りわずかですが、この1年間に何冊の本を読みましたか？平成22年の総務省調べだと1ヶ月の書籍類への出費は1世帯あたり約3700円だそうです。この数字には新聞、雑誌を含んでいます。新聞の購読は1ヶ月4000円程度でしょうから・・・3700円だと下回っていますね。平成20年度の文化庁による国語に関する世論調査の項目「1ヶ月あたりの読書量(雑誌と漫画は除く)」だと、16～19歳は、47%が読まない、30%が1,2冊だそうです。一番読書をしている層は20代で、内訳は38%が読まない、38%が1,2冊、7冊以上が5%でした。データを整理すると、「国民の6割くらいは、1ヶ月に本を1冊以上読んでいる。4割くらいは本を読まず、総務省の調査結果との関連性も考えられる。」ってところでしょうか。これを踏まえて6ページの図書館利用状況を見ると・・・今年になって1冊も読書していないのであれば、駆け込みで1冊読んでみてはいかがでしょうか？図書館で、お待ちしております。(図書主幹 中野 明)

発行日：平成23年12月19日

発行・編集：久留米工業高等専門学校図書館 Tel：0942-35-9306 Fax：0942-35-9206
〒830-8555 久留米市小森野一丁目1番1号 E-mail：L-staff.SAD@ON.kurume-nct.ac.jp